

現社・倫理・政経 漢字の基礎知識2013

大学受験生が読み書きできるようになってほしい漢字を集めた。公民科の教科書・資料集に載っているものがほとんどであり、センター試験でもおなじみで、新聞をすらすら読んで理解できるようにも欠かせない。

	漢字	よみかた	用例
1	□ 間柄	あいだから	和辻哲郎によれば、人間とは、もともと個人のみをしめすものではなく、同時に人と人との「アイダガラ」を示すものである。
2	□ 悪人正機	あくにんしょうき	アクニンジョウキとは、「自分の弱さ、罪深さを自覚し、阿弥陀仏の本願にすがらざるを得ないものこそ、阿弥陀仏の救いの正しい対象である」という考え方のことである。しかし親鸞の晩年にはこれを曲解し、わざと悪事をなすという「本願誇り」という傾向も生じた。
3	□ 威嚇	いかく	国権の発動たる戦争と、武力によるイカク又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。(憲法第9条)
4	□ 遺憾	いかん	イカンの意を表明する（外交で他国に対し使われる表現）
5	□ 遺棄	いき	死体イキも刑法上の罪となる（死体遺棄容疑で逮捕し殺人容疑でも取り調べることも行われる）
6	□ 移植	いしょく	臓器イショク法の改正により、15歳未満からの臓器提供が可能となった。
7	□ 為政者	いせいしや	中江兆民は、民権には、人民が下から自分で勝ちとった、英仏などにみられる「恢復(回復)的民権」と、イセイシヤが上から人民に恵み与えた「恩賜的民権」とがある、とした。
8	□ 逸脱	いつだつ	法令をイツダツしないことが必要であり、コンプライアンスの重要性が高まっている。
9	□ 委任	いにん	地方分権一括法により、機関イニン事務は廃止され、自治事務と法定受託事務に再編された。
10	□ 鬱積	うっせき	長年のウッセキを晴らすかのように活躍する。
11	□ 永劫回帰	えいごうかいき	ニーチェは、苦悩などが無限に繰り返すこと(エイゴウカイキ)をあえて肯定する。これに耐えることができるのが強者であり、自己の人生を絶対的に肯定するところに、自己の運命に対する愛(運命愛)が生まれる。
12	□ 易姓	えきせい	王の徳をもたず民意にそむく君主はもはや天命を失ったものとして追放されるというエキセイ革命思想
13	□ 疫病	えきびよう	エキビョウを防ぐことは公衆衛生の目的だ。社会保障の4つの柱は、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生
14	□ 演繹	えんえき	デカルトは、すべての確実な知識は、幾何学の公理のように明晰判明な原理から理性的な推理を進めることによって得られるとするエンエキ法を提唱した。
15	□ 縁起	えんぎ	この世界ではいかなるものも孤立して存在することはできず、相互に依存しあって生起しているというのが、エンギの法である。
16	□ 淵源	えんげん	権力のエンゲンは何か
17	□ 怨恨	えんこん	エンコンによる犯罪
18	□ 冤罪	えんざい	死刑囚による再審請求が認められた免田事件などがエンザイ事件の例である。
19	□ 黄金律	おうごんりつ	「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」というイエスの言葉は、キリスト教倫理の根本的な考え方をあらわすものとして尊重され、オウゴンリツとよばれるようになった。
20	□ 押収	おうしゅう	搜索又はオウシュウは、権限を有する司法官憲が発する各別の令状により・・・(憲法第35条)
21	□ 陥る	おちいる	債務不履行にオチイる。(債務不履行のことを「デフォルト」ともいう)
22	□ 恩賜	おんし	中江兆民は、民権には、人民が下から自分で勝ちとった、英仏などにみられる「恢復(回復)的民権」と、為政者が上から人民に恵み与えた「オンシ的民権」とがある、とした。
23	□ 恩寵	おんちよう	神による救いは神の意志によってあらかじめ決められているという、アウグスティヌスのオンチョウ予定説。
24	□ 開化	かいか	夏目漱石は、日本の近代化は「外発的カイカ」であり、西洋からの圧力による近代化であるため、日本人の自己確立が不十分だと批判した。
25	□ 懐疑	かいぎ	対立する国家間はいかぎ的になりがちである。これが勢力均衡政策の欠点
26	□ 解雇	かいこ	労働者のカイコには30日前の予告などの制限がある。
27	□ 介護	かいご	カイゴ保険の保険料を払うのは40歳以上の人である。
28	□ 回心	かいしん	パウロは、当初はパリサイ派の律法主義者としてキリスト教徒の迫害に情熱を傾けていたが、あるとき復活したイエスの声を聞いてカイシンし、キリスト教徒にうまれかわった。※改心や会心ではない
29	□ 開祖	かいそ	日蓮宗のカイソは日蓮である。
30	□ 該当	がいとう	東大では、保護者の年収400万円以下の学生は授業料を免除するので、条件にガイトウする人は申請してください。
31	□ 恢復	かいふく	中江兆民は、民権には、人民が下から自分で勝ちとった、英仏などにみられる「カイフク(回復)的民権」と、為政者が上から人民に恵み与えた「恩賜的民権」とがある、とした。
32	□ 快樂	かいらく	エピクロスは、人間は本性上カイラクを追及する存在であるにとらえ、カイラクはゼンであり、カイラクのうちに幸福があると主張した。
33	□ 乖離	かいり	景気指標と市民の実感とはカイリしている。(最近は、「街角景気」の把握もされる)
34	□ 格物致知	かくぶつち	書物・学問により事物の理を窮めることが「カクブツ」であり、天の理を知る知を完成すること(自己の知識を推し窮めること)が「チチ」である。
35	□ 格率	かくりつ	カントは、「あなたの意志のカクリツ(行為の原則)が、常に同時に普遍的立法の原理として妥当しうように行いしなさい」と述べた。※仮言命法でなく定言命法であれ、と。
36	□ 我執	がしゅう	自己中心的な執着であるガシユウをたつて煩惱の炎を消すことによってはじめて、いっさいの苦しみから解放される。
37	□ 過剰	かじょう	担保が不足しているのにカジョウ融資したことが不良債権につながった。
38	□ 寡占	かせん	少数の企業だけが存在する市場がカセン市場だ（ビールや板ガラスがその例）
39	□ 花鳥風月	かちょうふうげつ	万葉集においては、荒々しい自然よりも優美なカチョウフウゲツを歌う歌がみられ、自然を温和でやさしいものととらえる自然観がみられる。 ※森山直太郎の歌にもあるね。
40	□ 渴愛	かつあい	仏教では、煩惱の正体は、真理にそむいて自己の永遠の存在への執着をひきおこすカツアイである。

	漢字	よみかた	用例
41	☐ 葛藤	かつとう	勉強はしたくないが悪い成績もとりたくないというカットウがある 葛藤は「コンフリクト」ともいう。
42	☐ 過渡期	かとき	カトキとしての青年期の課題は何か ハヴィガーストは青年期の発達課題を10項目挙げた。
43	☐ 貨幣	かへい	経済活動にはカヘイが欠かせない。
44	☐ 寡民	かみん	小国で人民は少数のほうがよい、という老子の理想社会を述べた考え方を小国カミンという。
45	☐ 漢意	からごころ	本居宣長は、儒教や仏教など、中国から伝来した学問によってつくられた考え方であるカラゴコロは、理屈にこだわり、形式を重視し、純粋な心情を隠しているような心の状態であるとして批判した。
46	☐ 為替	かわせ	急激な円高進行は、日本企業の競争力を弱めるので、政府が外国カワセ市場で「円売りドル買い」の介入を行った。
47	☐ 還元	かんげん	円高が進んだのに輸入品を値下げしないなら円高差益が発生するので、値下げによりカンゲンする。
48	☐ 慣行	かんこう	系列取引など、日本独特の取引カンコウが非関税障壁だとされた。
49	☐ 緩衝	かんしょう	武力衝突を避けるためカンショウ地帯を設ける。
50	☐ 観想	かんそう	日常的・実際の関心をはなれ、理性を純粋にはたかせ、そのこと自体を楽しむことをカンソウ(テオリア)といい、それが人間の本質を完成させ、人間に最高の幸福をもたらすと主張した。
51	☐ 惟神	かんながら	本居宣長によれば、古道とは、漢意(からごころ)を排除して、『古事記』『日本書紀』のなかにあらわれた神の心にそった人為を加えない固有の道であり、神々の行動である「カンナガラの道」である。古代の天皇が、その政治において、神の道に従い、おおらかに治めたやりかたであり、それで天下は治まっていた、と述べている。
52	☐ 看話禅	かんなぜん	臨済禅のことをカンナゼンともいう。臨済禅で悟りに到達させる手段として師匠が修行者に与える問題を「公案」といい、公案に取り組むことを「看話」という。
53	☐ 涵養	かんよう	水源をカンヨウすることは森林の役割の一つである。
54	☐ 起業	きぎょう	若者のキギョウは経済に刺激を与える。 ※起業家を「アントレプレナー」という
55	☐ 基金	ききん	国際通貨キキン(IMF)は、為替安定のために設立された。
56	☐ 飢饉	ききん	干ばつや冷害によってキキンが起こる。
57	☐ 危惧	きぐ	軍備拡張競争をキグする。
58	☐ 儀式	ぎしき	成人式は大人社会への仲間入りのギシキである。
59	☐ 基軸	きじく	かつては英ポンド 現在は米ドルがキジク通貨だ。だから、アメリカ国債の格付けが引き下げられることは、米ドルへの信認を弱くすることになり、世界経済にとってマイナスだ。
60	☐ 喜捨	きしゃ	イスラムの五行の一つであるキシヤ(ザカート)は、所得に応じたイスラームの救貧税である。
61	☐ 機制	きせい	合理化や投射、反動形成などの防衛キセイは、無意識のうちにはたらく心のしくみである。
62	☐ 基調	きちょう	日本国民は、正義と秩序をキチョウとする国際平和を誠実に希求し・・・(憲法第9条) ※この部分は、憲法草案にはなく、国会審議の過程で加えられた部分(芦田条項)
63	☐ 拮抗	きっこう	与党と野党の勢力がキッコウしている。あるいは、衆議院と参議院で勢力図が異なる「ねじれ国会」も。
64	☐ 喜怒哀楽	きどあいらく	率直にキドアイラクを表現する。
65	☐ 義認	ぎにん	パウロは、「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」と述べた。(信仰ギニン)
66	☐ 帰納	きのう	ベーコンは、観察や実験にもとづく経験を通じて自然を解明する新しい学問の方法であるキノウ法を提唱した。このように、経験をあらゆる知識の源泉とみなす考え方を経験論という。
67	☐ 詭弁	きべん	ソフィストは、普遍的な真理に到達するためではなく、単に相手を言い負かすことだけを目的として、単なる論争のための論争を繰り広げた。このような論法をキベンという。
68	☐ 規模	きぼ	企業はキボの利益を得るため、広告宣伝やM&Aなどによりにシェア拡大を図る。
69	☐ 救世主	きゅうせいしゅ	キウセイシュ(メシア)とは、もとは「油を注がれた者」を意味するが、これは、ユダヤ人の王が即位に際して油を注がれていたことに由来する。
70	☐ 窮理	きゅうり	朱子によれば、事物に宿る理を窮めていくことをキュウリという。
71	☐ 享受	きょうじゅ	その福利は国民がこれをキョウジュする(憲法前文) ※リンカーンのゲティスバーグ演説に酷似した部分
72	☐ 享有	きょうゆう	国民は、すべての基本的人権のキョウユウを妨げられない。(憲法第11条)
73	☐ 拒否	きよひ	5つの常任理事国はキョヒ権を持つ。
74	☐ 均衡	きんこう	勢力キンコウが破れて世界大戦が勃発した。
75	☐ 禁欲	きんよく	ゼノンは、自然に反した過度の衝動である欲望・快楽などの情念(パトス)を克服することで自然と一致して生きることができるというキンヨク主義を主張した。
76	☐ 偶発	ぐうはつ	軍事境界線でグウハツ的に戦闘が起こる恐れがある。
77	☐ 覆す	くつがえ・す	ケインズ以前の経済学は供給に着目するものだったが、需要の創造に着目するケインズの理論はそれまでの経済の常識をクツガエすものだった。
78	☐ 君子	くんし	孔子は、仁の実現と自己の道徳的完成をめざす人間をクンシとよび、これを人間のあるべき姿であるとした。
79	☐ 啓示	けいじ	ムハンマドは、アッラーのケイジを受けるようになった。
80	☐ 形而上学	けいじじょうがく	哲学はケイジジョウガクだ。
81	☐ 警鐘	けいしょう	レイチエル・カーソンの『沈黙の春』は環境破壊にケイショウを鳴らした古典である。
82	☐ 形相	けいそう	アリストテレスはプラトンを批判して、普遍的なアイデアがあるのでなく具体的な個々の事物(個物)こそが実在であり、本質は個物に内在すると主張し、個物に内在化された本質をケイソウ(エイドス)と呼んだ。
83	☐ 恵沢	けいたく	わが国全土にわたって自由のもたらすケイタクを確保し・・・(憲法前文)

	漢字	よみかた	用例
84	□ 啓典	けいてん	ムハンマドは、ユダヤ教徒・キリスト教徒を「ケイテンの民」とよんだ。実際に、一神教・終末思想など共通点が多い。
85	□ 啓蒙	けいもう	人間の「理性の光」で前近代の因習や迷信を批判し、合理的なものの実現をめざすのがケイモウ主義の思想である。
86	□ 解脱	げだつ	バラモン教で、無限の輪廻の苦しみからの解放をゲダツとよぶ。
87	□ 欠陥	けっかん	寡占市場では価格機構が機能しにくいという「市場のケツカン」がある
88	□ 欠如	けつじょ	儲けるためには何をしてもいい、といわんばかりの倫理観のケツジョは大きな問題だ。
89	□ 検閲	けんえつ	ケンエツは、これをしてはならない。(憲法第21条)
90	□ 限界	げんかい	ヤスパースによれば、死・悩み・争い・罪などの極端な状況であるゲンカイ状況に直面したとき、人間はみずからの実存を自覚する。
91	□ 言及	げんきゅう	交渉で領土問題にゲンキウしたが、相手は「解決済み」だと主張した。
92	□ 元型	げんけい	ユングによれば、集合的無意識は個人の経験とは無関係に生まれつきすべての人間の心の奥底に備わっているもので、彼はこれを「ゲンケイ」とよび、人間の欲望や行動の源泉にこの「ゲンケイ」があるとした。
93	□ 減殺	げんさい	せっかくの効果がゲンサイされてしまった。
94	□ 原罪	げんざい	キリスト教では、人間自身の力ではどうしようもない、人間であること自体に由来する根源的な罪のことをゲンザイという。
95	□ 顕在	けんざい	冷戦終結以降、民族・宗教対立がケンザイ化している。
96	□ 厳肅	げんしゆく	そもそも国政は、国民のゲンシュクな信託によるものであつて…(憲法前文)
97	□ 憲政	けんせい	議会制民主主義のあるべき姿を「ケンセイの常道」とよぶ
98	□ 顕著	けんちよ	新しい技術を取り入れた効果はケンチョだ。 ※シュンペーターのいう「イノベーション」の力
99	□ 権謀術数	けんぼうじゆつすう	マキャヴェリは、君主は権力を獲得し、統治するためにはいかなる悪業をなしてもよいと主張し、ケンボウジュツスウ主義と批判された。
100	□ 業	ごう	バラモン教では、何にうまれかわるかは、そのものの現世の行為であるゴウ(カルマ)の善悪によるとされた。
101	□ 公案	こうあん	臨済禅で悟りに到達させる手段として師匠が修行者に与える問題をコウアンという。
102	□ 恒久	こうきゅう	日本国民は、コウキウの平和を念願し…(憲法前文)
103	□ 拘禁	こうきん	弁護人に依頼する権利を与えられなければ、抑留又はコウキンされない。(憲法第34条)
104	□ 後見	こうけん	成年コウケン制度
105	□ 貢献	こうけん	国際コウケンの方法にはさまざまなものがある
106	□ 行使	こうし	武力による威嚇又は武力のコウシは国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。(憲法第9条)
107	□ 交渉	こうしょう	武力行使でなくコウショウにより問題を解決する
108	□ 恒常	こうじょう	臨時の措置でなくコウジョウ的なものとする
109	□ 拘束	こうそく	あらかじめ定められた手続きによらなければコウソクされないことが憲法に規定されている。
110	□ 更迭	こうてつ	事故の責任をとって大臣がコウテツされた ※「こうそう」ではない。「矢」や「送」ではない。
111	□ 鉅毒	こうどく	足尾コウドク事件は明治時代の公害の代表例である
112	□ 五行	ごぎょう	信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼をおこなうことをゴギョウという。
113	□ 国事	こくじ	天皇のコクジ行為には、衆議院の解散や、法律の公布が含まれている。
114	□ 国粹	こくすい	三宅雪嶺や志賀重昂らは欧化主義に反発し、雑誌『日本人』によってコクスイ主義を提唱した。
115	□ 国政	こくせい	衆参両議院はコクセイ調査権を持つ ※両議院が別々に独自に行使できる
116	□ 国勢	こくせい	5年に一度のコクセイ調査(次回は2015年)
117	□ 骨子	こっし	新しい政権の政策のコッシが明らかになる
118	□ 誤謬	ごびゅう	部分的には正しくても、合わさると逆効果になるという合成のゴビュウ。たとえば、コンサート会場でよく見えるようにと誰かが立ち上がると、後ろの人は見えなくなり、みんなが立ち上がると、結局はみんなが座っていたときと同じ状況になるような場合。
119	□ 五倫	ごりん	孟子は、基本的な人間関係の在り方として、親、義、別、序、信というゴリンの道を示した。
120	□ 根拠	こんきょ	朝日訴訟は憲法第25条をコンキョとして生存権保障を求めたものであるが、最高裁は、同条は国民の権利を直接に保障するものではないという「プログラム規定説」の考え方により、請求を認めなかった。
121	□ 混然	こんぜん	インターネットでは有益な情報と有害な情報がコンゼンとしている
122	□ 最恵国	さいけいこく	貿易拡大を図る方法の一つとしてサイケイコク待遇がある
123	□ 祭祀	さいし	新嘗の祭りなどの農耕行事では、サイシを主催する首長の存在が大きなものになっていった。
124	□ 債務	さいむ	累積サイム問題
125	□ 錯誤	さくご	時代サクゴの主張
126	□ 搾取	さくしゅ	マルクスは、資本家が労働者をサクシュしていると考えた。

	漢字	よみかた	用例
127	□ 流石	さすが	この品質の高さは、サスガに日本製品だ。
128	□ 雑種	ざっしゅ	加藤周一は、日本文化をザッシュ文化と特色づけた。この場合のザッシュとは価値判断ではなく事実判断であり、日本文化がザッシュである事実を認め、そこに積極的意味をみいだしていくべきだと論じた。
129	□ 刷新	さっしん	人事をサッシンするために事務次官を更迭した。
130	□ 砂漠	さばく	和辻哲郎は、東アジアをモンスーン型、西アジアをサバク型、ヨーロッパを牧場型に分類・比較した。
131	□ 惨禍	さんか	政府の行為によって再び戦争のサンカが起ることのないやうに・・・(憲法前文)
132	□ 残虐	ざんぎやく	憲法はザンギyakな刑罰を禁じているが、裁判所は、死刑自体を否定はしておらず、死刑の執行停止を命じたこともない。
133	□ 三元徳	さんげんとく	信仰・希望・愛は、キリスト教のサンゲントクとよばれる。
134	□ 暫時	ざんじ	会議はザンジ休会とします。
135	□ 四箇格言	しかかくげん	日蓮は、シカカクゲンで他宗を批判した。ただし天台宗に対しては批判していない。
136	□ 四苦	しく	ブツダによれば、現実の人生は、生・老・病・死のシクの連続だ。
137	□ 四元徳	しげんとく	プラトンの四元徳とは、統治者の知恵・防衛者の勇気・生産者の節制という、魂の三部分の徳に、その調和ある姿である正義を合わせたものをいう。
138	□ 示唆	しき	シサに富んだ提案 ※シシュンではない
139	□ 思索	しさく	シサクにふける
140	□ 四諦	したい	四諦とは、真実としての苦(苦諦きたい)、苦の生起の原因(集諦じったい)、苦の消滅(滅諦めったい)、苦の消滅に進む道(道諦どうたい)をいい、諦とは真理・真実の意味で、四聖諦ともいう。
141	□ 四端	したん	シタンの「端」とは、めばえ・芽という意味である。人間ならば誰でも持っている素朴な感情である「惻隱の心(他人の不幸を見過ごせない同情心)」「羞惡の心(不正を恥じ憎む心)」「辞讓の心(へりくだって他人に譲る心)」「是非の心(善悪を見分ける心)」の4つを育てていけば、だれでも仁・義・礼・智の四徳をそなえた優れた人格になることができるという。
142	□ 七元徳	しちげんとく	教父アウグスティヌスは、キリスト教の三元徳(信仰・希望・愛)の下にギリシャの四元徳(知恵・勇気・節制・正義)を位置づけ、あわせてキリスト教の七元徳とした。
143	□ 疾風怒濤	しつぷうどう	青年期はシツプウドウの時期だ。
144	□ 疾病	しっぺい	シツペイ対策は厚生労働省の仕事である ※シツビョウではない
145	□ 質料	しつりょう	アリストテレスによれば、事物のなりたちは、個物に内在化された本質である形相(エイドス)と、素材にあたるシツリョウ(ヒュレー)によって説明できる。
146	□ 自然法爾	じねんほうに	親鸞の没後編集された『末燈鈔まっとうしゅう』では、親鸞が到達した絶対他力の信仰をジネンホウニとよんでいる。これは、極楽往生するにはこうしたらよいのではないだろうかなどという、みずからの考え・はからいなどを捨てて阿弥陀仏にすべてをまかせるという意味である。
147	□ 慈悲	じひ	生命あるもの(衆生)をへだてなく愛するジヒ。
148	□ 思慕	しぼ	魂には、かつて接したアイデアの世界へのシボの情(エロース)があり、それを原動力にしてアイデアを想起し、アイデアの世界を学び知ることが、幸福につながる人間の本来の生き方であるとプラトンは主張した。
149	□ 四法印	しほういん	一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜の4つがシホウインとよばれ、ここには仏教の人生観・世界観が凝縮されている。
150	□ 終審	しゅうしん	最高裁はシュウシン裁判所だ
151	□ 終身	しゅうしん	シュウシン雇用は、年功序列賃金制や企業別組合とともい、第二次世界大戦後の日本の大企業では一般的だったが、現在では大きく変化した。
152	□ 終末	しゅうまつ	B.C.1世紀のバレスデナでは、いまの世の終わりの日が間近にせまっているというシュウマツ思想があった。
153	□ 収賄	しゅうわい	公務員などが賄賂を受け取ることをシュウワイといい、犯罪となる。
154	□ 熟練	じゅくれん	産業革命により機械化が進んで、ジユクレン労働者が不要となり、女性や年少者が低賃金工場労働者となった。
155	□ 衆生	しゅじょう	一切シュジョウ悉有仏性(一切の生きとしいけるものにはことごとく仏に成りうる性質がある)という大乘仏教の考え方
156	□ 十戒	じっかい	律法の中でも特に重要なものがモーゼのジツカイである。
157	□ 受容	じゅよう	カウンセリングの基本はジュヨウである
158	□ 遵守	じゅんしゅ	法令ジュンシュが大原則だ。
159	□ 逡巡	しゅんじゅん	どうしたものかとシュンジュンする。
160	□ 純粹経験	じゅんすいけいけん	西田幾多郎は、西洋の近代哲学が主幹と客観、精神と物質という対立を前提にしているのに対し、東洋とくに禅仏教では、そうした区別や対立以前の、主客未分の直接的な経験を問題にしていると考え、これをジュンスイケイケンと名づけた。
161	□ 止揚	しよう	ヘーゲルは、あるものはすべて、自己自身のなかに自己と対立・矛盾するものを含んでおり、その対立・矛盾をより高い立場で総合すること(ショウ)(アウフヘーベン)によって、新しい統一に至ると考え、この法則を弁証法とよんだ。
162	□ 昇華	しょうか	満たされない欲求を社会的に価値の認められるものに向ける防衛機制がショウカである。
163	□ 醸成	じょうせい	政府間の対立において、市民同士の交流は信頼ジョウセイ装置となる。
164	□ 常道	じょうどう	議会制民主主義のあるべき姿を「憲政のジョウドウ」とよぶ
165	□ 障壁	しょうへき	非関税ショウヘキを撤廃せよと要求された。 ※複雑な手続や長時間を要することは貿易を阻害する
166	□ 常民	じょうみん	柳田国男は、歴史を支えてきたのは名もなき普通の人々であると考え、このようは人々をジョウミンとよんだ。
167	□ 照葉樹林	しょうようじゅりん	日本列島西部は、カシ・クス・シイなどにおおわれたショウヨウジュリン帯(常緑広葉樹林帯)だ。

	漢字	よみかた	用例
168	☐ 剰余価値	じょうよかち	マルクスは、労働者が労働によって生み出したジョウヨカチを、資本家が労働者に支払うことなく搾取していると批判した。
169	☐ 身心脱落	しんじんだつらく	己の身も心も忘れ去る無我の境地をシンジンダツラクという。(シンジントツラクともいう。) 曹洞宗の道元が開いた境地。 ※心身ではなく身心
170	☐ 迅速	じんそく	被告人は、公平な裁判所のジンソクな公開裁判を受ける権利を有する。(憲法第37条)
171	☐ 人倫	じんりん	ヘーゲルは、自由や道德の問題を、個人の内面の主観的なあり方にとどまらず、現実社会の客観的な法や制度にあらわれる、ジンリンの問題としてとらえた。
172	☐ 推移	ずいい	失業率が高い水準でスイイしている。現在の日本の完全失業率は4-5%程度。失業者数にして300万人程度。
173	☐ 衰退	ずいたい	エネルギー革命により1960年代には石炭産業がスイタイした。
174	☐ 崇高	ずこう	人間相互の関係を支配するスウコウな理想を深く自覚する(憲法前文)
175	☐ 枢軸	すうじく	ヤスパースは、B.C.800年からB.C.200年までをスウジク時代とよんで、この時代を軸として人類全体の歴史をとらえようとした。
176	☐ 趨勢	すうせい	自由貿易が拡大するという時代のスウセイ
177	☐ 正義	せいぎ	アリストテレスは、セイギを全体的セイギと部分的セイギに大別し、部分的セイギを、名誉や財貨などを各人の功績や働きの違いに応じて配分する配分的セイギと、裁判や取引などで当事者たちの利害・得失が均等となるように調整する調整的セイギの二つに分けた。
178	☐ 制御	せいぎょ	人間が核分裂をセイギョすることはどこまで可能なのか。
179	☐ 制裁	せいさい	安全保障理事会はブリョク制裁を容認している。 ※国連総会よりも安保理の方が上位にある。
180	☐ 成熟	せいじゅく	セイジュクした国家関係はどうあるべきか
181	☐ 聖遷	せいせん	ムハンマドと信者が622年にメディナに移住したことを、セイセンとよぶ。
182	☐ 聖戦	せいせん	信仰とイスラーム共同体を防衛・拡大するためにたたかうことをジハードといい、セイセンと訳される。(もともとは、神のために自己を犠牲にしてたたかうことを意味する。)
183	☐ 性徴	せいちょう	近代以前の社会では、第二次セイチョウがあらわれるとまもなく、元服などの通過儀礼が行われた。
184	☐ 正直	せいちよく	石田梅岩(石門心学)は、「人は身分やそれぞれの持分に満足し、日常生活の中でセイチョクと儉約に心がけ実践することが必要である」と主張した。セイチョクとは、偽りがなく、正しく素直なことを言い、梅岩はこれが人間本来の無私の心であると説いた。
185	☐ 繊細	せんさい	パスカルは、人間の尊厳を「思考すること」の中に見出し、また、幾何学的精神ではなく、神とともに生きるセンサイの精神を必要とした。
186	☐ 漸次	ぜんじ	温暖化対策のため、消費電力が少ないLED電球がゼンジひろがっていった
187	☐ 専修	せんじゅ	法然は、阿弥陀仏の本願を信じひたすら念仏すること(センジュ念仏)により極楽往生できると説いた。
188	☐ 漸増	ぜんぞう	レジ袋有料化に伴い、エコバッグ利用がゼンゾウしている
189	☐ 先端	せんたん	近年では、センタン医療技術の発達によって人間の生や死をある程度操作できるようになった。これに伴って、生命倫理をめぐるさまざまな問題も生じている。
190	☐ 先哲	せんてつ	センテツの教えに耳を傾けよう
191	☐ 選民	せんみん	旧約聖書によると、ユダヤ人は神との契約によって選び出され、救いを約束された民族であった。(センミン思想)
192	☐ 想起	そうき	魂には、かつて接したアイデアの世界への思慕の情(エロース)があり、それを原動力にしてアイデアをソウキし、アイデアの世界を学び知ることが、幸福につながる人間の本来の生き方であるとプラトンが主張した。
193	☐ 遭遇	そうぐう	宇宙空間利用に伴い、未知とのソウグウの可能性が増した。
194	☐ 搜索	そうさく	ソウサク又は押収は、権限を有する司法官憲が発する各別の令状により(憲法第35条)
195	☐ 増殖	ぞうしょく	高速ソウショク炉「もんじゅ」の安全性が問われている。
196	☐ 相対	そうたい	特定の文化を絶対的なものとみなさないで、それぞれの文化はそれぞれの価値を持っていると考える思想や態度を文化ソウタイ主義という。
197	☐ 贈与	ぞうよ	日本のODAは金額は大きいがヨーロッパに比べゾウヨ比率は低い。
198	☐ 疎外	そがい	チャップリンの「モダンタイムス」は現代大衆のソガイ状況を描いた ※阻害ではない
199	☐ 阻害	そがい	栄養不足により成長がソガイされている ※暴力だけでなく、育児放棄(ネグレクト)も児童虐待の一つ
200	☐ 遡及	そきゅう	憲法第39条はソキユウ処罰の禁止を定めている。 ※罪刑法定主義。事後法による処罰の禁止
201	☐ 則天去私	そくてんきよし	夏目漱石は、自己主義・個人主義の追求の末、晩年には禪的な無我の境地ともいうべき「ソクテンキョウ」を理想とした。これは、東洋的な思想といえるものであり、利己心などから解放されて、見栄や虚偽をもつことなく、大いなる存在としての自然に自己自身をゆだね、自然の命ずるままに生きていく境地である。
202	☐ 訴追	そつい	罷免のソツイをする ※弾劾裁判
203	☐ 存在	そんざい	即自ソンザイ、対自ソンザイ。サルトルは、対自存在が実存であるとした。
204	☐ 存心持敬	そんしんじけい	林羅山は、みずからをつつしみ、他をあざむくことがない心(敬)をもつことを最も重視したが、これは、身分秩序を重視する支配階級の武士に受け入れられた。
205	☐ 大義名分	たいぎめいぶん	水戸学の会沢正志斎(あいざわせいしさい)は、主君に対する忠誠、国家秩序に対する服従を絶対視する「タイギメイブン」論を唱えた。
206	☐ 対偶	たいぐう	「AならばBである」と「BでなければAでない」はタイグウの関係にある
207	☐ 待遇	たいぐう	非正社員のタイグウは正社員に比べると一般に劣っている ※年収は2分の1〜3分の1程度。収入の少なさや不安定さは未婚率にも影響し、少子化を一層進めている。
208	☐ 対照	たいしょう	東京と大阪を比較タイショウする

	漢字	よみかた	用例
209	☐ 対称	たいしょう	左右タイショウの図形
210	☐ 対象	たいしょう	経済的困窮度には関係なく、高齢者や児童は社会福祉のタイショウだ。
211	☐ 大丈夫	だいじょうぶ	孟子は、善行を積み重ね、浩然の気を養うものをダイジョウブとよび、理想の人間像とした。
212	☐ 怠情	たいだ	タイダな生活を送っていると、合格は難しい。
213	☐ 多寡	たか	財産のタカにより選挙権が差別されていたのが制限選挙であった。
214	☐ 卓越	たくえつ	能力がタクエツしている
215	☐ 弾劾	だんがい	両議院の議員で組織するダンガイ裁判所を設ける。(憲法第64条) ※裁判官を罷免する手続
216	☐ 知恵	ちえ	ギリシャの四元徳の一つ。「チエ」「勇氣」「節制」がそろった社会で「正義」が実現する。
	☐ 地産地消	ちさんちしょう	地元で生産された農水産物を食材にしたチサンチショウのレストラン
217	☐ 抽出	ちゅうしゅつ	チュウシュツ調査(⇔悉皆シツカイ調査)
218	☐ 中庸	ちゅうよう	アリストテレスによれば、勘定や欲望が理性の指示に従うとは、過不足を避けてチュウヨウ(メソテース)を選択することである。
219	☐ 貯蔵	ちよぞう	核廃棄物のチョゾウ場所は無限ではない。
220	☐ 鎮圧	ちんあつ	軍事政権が民主化運動のデモ隊をチンアツする様子がインターネットを通じて世界に伝わった。
221	☐ 鎮護	ちんご	仏法によって国の安泰をはかるというチンゴ国家の思想
222	☐ 椿事	ちんじ	春のチンジ
223	☐ 陳述	ちんじゅつ	裁判の冒頭チンジュツ
224	☐ 鎮静	ちんせい	騒ぎがチンセイ化する
225	☐ 通貨	つうか	国際ツウカ基金(IMF)は為替の安定のために活動してきた。貿易自由化を進めるGATTとあわせ、IMF-GATT体制とよばれた。GATTは発展的に解消してWTOとなったが、IMFは現在も存在している。
226	☐ 通過	つうか	バンジージャンプはもともとパヌアツの若者が大人社会の仲間入りをするツウカ儀礼だった。
227	☐ 定言命法	ていげんめいほう	「異性にもてたかったら親切にせよ」というのが仮言命法であり、「人には親切にせよ」というのが定言命法である。
228	☐ 抵抗権	ていこうけん	ロックは、政府が暴政を行った場合には国民はテイコウケンを持つ、とした。
229	☐ 哲人	てつじん	プラトンは、理想国家実現のためにはアイデアを認識する哲学者が統治する必要がある(テツジン政治)と説いた。
230	☐ 転回	てんかい	カントは、認識が対象に従うのではなく対象が認識に従うという逆転を、「コベルニクスのテンカイ」とよんだ。
231	☐ 典型	てんけい	テンケイ7公害とは大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下、騒音、振動、悪臭をいう。
232	☐ 天賦	てんぷ	明六社の啓蒙思想家たちは西洋文明についての知識の移入をすすめ、「テンプ人権論」を説いたが、その後の自由民権運動の進展に対しては、官民調和の立場をとる者が多かった。
233	☐ 等価	とうか	三面トウカの原則とは、生産国民所得、支出国民所得、分配国民所得が等しいこと
234	☐ 投企	とうき	人間は自分自身で自分をつくっていく存在であり、未来に向かって自分を投げ出し、企てていくというウキの意味で自由である。(サルトル)
235	☐ 洞窟	どうくつ	プラトンは、多くの人がアイデアの影を實在であると思い込んでいる状態を、うまれたときから暗闇のドウクツに閉じ込められたままの囚人が、壁に映る背後の事物の映像をそのまま實在であると思い込んでいるありさまにたとえた(ドウクツの比喩)
236	☐ 逃避	とうひ	現実からトウヒして妄想する
237	☐ 徳	とく	アリストテレスは、トクを魂・理性の優れた在り方としてとらえ、勇氣・節制・正義などの習性的トク(倫理的トク)と、知恵・思慮などの知性的トクとに分けた。
238	☐ 匿名	とくめい	インターネットはトクメイ性が高いが、足跡を全く残さないわけではない。
239	☐ 途上	とじょう	発展トジョウ国
240	☐ 特惠	とっけい	最恵国待遇の例外として、先進国が発展途上国の産品に対してより低い関税率を適用できるのがトツケイ関税である。
241	☐ 砦	とりで	最高裁判所は人權のトリデと言われる。 ※「憲法の番人」とも
242	☐ 奴隷	どれい	ニーチェは「ルサンチマン(弱者が支配者や強者への憎悪やねたみを内心にため込んでいること。怨恨)から生じている感情を、愛や同情などのすばらしいものだと思わせようとするキリスト教はドレイ道德だ」と批判し「神は死んだ」と宣言した。何人も、いかなるドレイ的拘束も受けない。(憲法第18条)
243	☐ 内省	ないせい	深くナイセイする
244	☐ 二元論	にげんろん	ものごとを二つの対立する要素(原理)としてとらえる考え方をニゲンロン(または二世界論)といい、プラトンは「アイデアの世界(イデア界)」と「現実世界(現象界)」というニゲンロン、デカルトは「精神」と「身体」というニゲンロンを唱えた。
245	☐ 涅槃寂靜	ねはんじやくじょう	四法印のひとつであるネハンジャクジョウは、煩惱の炎が消えて静まった世界、苦しみを克服した心の平安のことであり、仏教の理想の境地である。
246	☐ 念仏	ねんぶつ	法然は、阿弥陀仏の救いに最もふさわしいのは、文字も読めないような民衆であると述べ、経典を読むことなど一切必要としないネンブツの功德を強調している。
247	☐ 脳死	のうし	臓器移植法の改正により、臓器移植の有無に関わりなく、脳死が人の死とされることとなった。
248	☐ 把握	はあく	震災の被害状況をハアクする。

	漢字	よみかた	用例
249	☐ 排除	はいじょ	ダンピングなどの不当競争をハイジョする。 ※ダンピングとは、原価を下回る価格で売るなどの不当販売をいう。
250	☐ 排斥	はいせき	人種ハイセキ運動
251	☐ 媒体	ばいたい	メディアのことをバイタイという。新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど、さまざまなバイタイを通じて情報を得ている。
252	☐ 配慮	はいりょ	少数民族にハイリョした措置の一つにクォータ制がある。 ※クォータとは「割り当て」という意味で、「クォーター(4分の1)」ではない。
253	☐ 迫害	はくがい	ナチスによるユダヤ人ハクガイ
254	☐ 漠然	ばくぜん	バクゼンとした不安は余計にやっかいだ ※不安は文字に書き出せば、案外大したことないと思えてくるもの。
255	☐ 破綻	はたん	1990年代後半には、大企業の経営ハタンが相次いだ。(そごう、山一證券、北海道拓殖銀行など) ※読み方は「はじょう」ではない。
256	☐ 発議	はつぎ	憲法改正のハツギは国会がおこない、その後の国民投票で過半数の賛成が必要となる。このハツギは今まで一度も行われたことはないが、国民投票について定める法律(国民投票法)は制定されている。
257	☐ 発現	はつげん	第二次性徴のハツゲンが見られた
258	☐ 万人	ばんにん	ルターのとнаえたバンニン司祭主義
260	☐ 万物斉同	ばんぶつせいどう	莊子は、老子の説く無為自然の道をさらに徹底して、あらゆる相対的な区別をこえるバンブツセイドウの道を主張した。
261	☐ 氾濫	はんらん	河川のハンランを防ぐことは治山事業の目的の一つだ。
262	☐ 批准	ひじゅん	憲法第7条には天皇の国事行為の一つとして「ヒジュン書の認証」が規定されている
263	☐ 疲弊	ひへい	地方経済がヒヘイしている。人口が増加しているのは東京など首都圏だけという、一極集中の問題。
264	☐ 罷免	ひめん	公務員を選定し、及びこれをヒメンすることは、国民固有の権利である。(憲法第15条)
265	☐ 比喩	ひゆ	プラトンは、多くの人がアイデアの影を實在であると思い込んでいる状態を、うまれたときから暗闇の洞窟に閉じ込められたままの囚人が、壁に映る背後の事物の影像をそのまま實在であると思い込んでいるありさまにたとえた(洞窟のヒユ)
266	☐ 頻繁	ひんばん	戦後の混乱期にはヒンバンに停電が起こった。
267	☐ 風土	ふうど	和辻哲郎は、フウドとは単なる自然的な環境を意味するのではなく、人間の精神構造そのものの中に刻み込まれた自己了解のしかた(精神フウド)であると考え、東アジアをモンスーン型、西アジアをサバク型、ヨーロッパを牧場型に分類・比較した。
268	☐ 賦課	ふか	年金のフカ方式、現役世代の負担をその時の高齢者に給付するもので、日本は基本的にこの方式。これは、高齢者が増え若者が減ると年金財政を圧迫し、世代間の不公平感を強めることになる。
269	☐ 不可侵	ふかしん	憲法は財産権のフカシンを定めるが、同時に、正当な補償の下にこれを公共の福祉のために用いることができることも定める。
270	☐ 福音	ふくいん	フクインとは、神の意志が地上に実現するという、よろこばしい知らせのことである。
271	☐ 復讐	ふくしゅう	昔の仕打ちにフクシュウする。
272	☐ 不敬	ふけい	内村鑑三が、第一高等中学校で勅語に記された天皇の署名に深く礼をしなかったことがフケイ事件として問題になり、退職を余儀なくされた。
273	☐ 不祥事	ふしょうじ	企業のフショウジが相次いでいるのは問題だ。
274	☐ 不断	ふだん	国民のフダンの努力によつて、これを保持しなければならない。(憲法第12条) ※普段ではない
275	☐ 復古	ふっこ	平田篤胤は、本居宣長のいう神の道をいつそうおしすすめ、フツコ神道を唱えた。
276	☐ 復興	ふっこう	震災からのフツコウを進めるためには、党派を超えた協力が不可欠だ。
277	☐ 普遍	ふへん	これは人類フヘンの原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。(憲法前文)
278	☐ 紛争	ふんそう	民族フンソウ ※紛争としないこと
279	☐ 平衡	へいこう	ヘイコウ感覚
280	☐ 便益	べんえき	利益集団(圧力団体)の存在そのものは違法ではないが、その集団のベンエキをはかることが行き過ぎると、民主政治として問題が生じる。
281	☐ 偏在	へんざい	石油資源は西アジアや北アフリカにヘンザイしている。
282	☐ 弁証法	べんしょうほう	日本のことわざの「急がば回れ」「負けるが勝ち」などは、ヘーゲルのベンショウホウに通じるものがある。
283	☐ 崩壊	ほうかい	ベルリンの壁がホウカイしたのは1989年だった。冷戦終結宣言(マルタ宣言)も。
284	☐ 傍受	ほうじゅ	通信ボウジュ法はプライバシーを侵害していないか、という意見がある。
285	☐ 報酬	ほうしゅう	会社が大幅な損失を出しているのに取締役の高額なホウシュウは問題ではないか。
286	☐ 放蕩	ほうとう	悔い改めた者が神の愛によって救われる話として、ホウトウ息子のたとえがある。
287	☐ 冒頭	ぼうとう	裁判のボウトウ陳述
288	☐ 保証	ほしょう	家電製品のホショウ書 ※故障して必要なときにはなかなか見つからないものですね・・・
289	☐ 保障	ほしょう	社会ホショウを充実させた「大きな政府」には財政負担を伴う。
290	☐ 補償	ほしょう	私有財産は、正当なホショウの下に、これを公共のために用ひることができる。(憲法第29条) ※経済的自由権は無限ではない。
291	☐ 勃発	ぼっぱつ	全会一致を原則とし軍事的制裁を規定していなかった国際連盟は、第二次世界大戦のボツパツを防ぐことができなかった。

	漢字	よみかた	用例
292	☐ 梵我一如	ぼんがいちによ	ウパニシャッド哲学では、輪廻をひきおこす業をたちポンガイチニョの真理を体得すれば解脱できると説いた。
293	☐ 本旨	ほんし	憲法は「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治のホンシに基いて、法律でこれを定める。」としており、地方自治のホンシの中身は、「住民自治」と「団体自治」である。
294	☐ 煩惱	ぼんのう	究極の安らぎの世界は、ボンノウの炎が消えて静まった世界(涅槃寂静)である。
295	☐ 凡夫	ぼんぶ	人はみな、欲望にとらわれたおろかな存在(ボンブ)だ。
296	☐ 民族	みんぞく	冷戦終結後に、ミンゾク紛争が激化した。
297	☐ 民俗	みんぞく	柳田国男は、習俗・信仰・年中行事・伝説・民話など、文字をもたない農民や猟師の暮らしの中にあるものを重視して、これを研究対象とするミンゾク学を創始した。
298	☐ 無為	むい	老子は、人間によるあらゆる作為をこえた自然の秩序が支配する状態であるムイ自然を説いた。
299	☐ 無償	むしょう	義務教育は、これをムショウとする。(憲法第26条)
300	☐ 明晰	めいせき	メイセキな頭脳
301	☐ 網羅	もうら	全体をモウラする。
302	☐ 黙照禅	もくしょうぜん	曹洞宗で、ひたすら坐するという行為(只管打坐)の中で執着心を断ち、雑念を去って、束縛するもののない自由な境地に入っていくのがモクショウゼンだ。
303	☐ 黙秘権	もくひけん	被疑者にはモクヒケンがある。不利なことは言わなくてよい。
304	☐ 摸索	もさく	行政統制のあり方をモサクする。行政の民主化は現代国家の課題。
305	☐ 模造品	もぞうひん	モゾウヒンの販売は知的財産侵害となる。WTOは知的財産権保護も進める。
306	☐ 諸刃の剣	ものはの・つるぎ	「自由」を重視すれば格差が拡大するというモロハのツルギ。自由と平等のどちらも大切だが・・・
307	☐ 模倣	もほう	外来文化をモホウしつつ発展したのが、日本文化の特徴の一つだ。
308	☐ 問答	もんどう	相手とモンドウ(対話)することで相手のもっている知識のあいまいさを示し、本当は何も知らないことを自覚させようとするのが、ソクラテスのモンドウ法(産婆術)である。
309	☐ 友愛	ゆうあい	アリストテレスは、習性的徳のなかでも正義とユウアイ(フィリア)を、共同体で生活するうえで欠かせないものとして重視した。
310	☐ 融合	ゆうごう	東西文化のユウゴウ。核ユウゴウ技術の研究。
311	☐ 猶予	ゆうよ	青年期は、社会に出る前のユウヨ期間である。
312	☐ 擁護	ようご	公務員は憲法をヨウゴする義務を負う。
313	☐ 抑制	よくせい	温暖化対策として二酸化炭素の排出をヨクセイする。京都議定書が発効。
314	☐ 抑留	よくりゅう	弁護人に依頼する権利を与へられなければ、ヨクリュウ又は拘禁されない。(憲法第34条)
315	☐ 預言者	よげんしゃ	イスラムでは、モーセやイエスもヨゲンシャとして認めるが、最後にして最高のヨゲンシャはムハンマドである。
316	☐ 履行	りこう	契約のリコウを監視する。(注)「ふくこう」などと読まないこと！
317	☐ 利殖	りしょく	効率よくお金を増やすリショク法をさがす。しかしリスクとリターンのパランスに要注意。
318	☐ 律法	りっぽう	旧約聖書では、神の意志は「モーセの十戒」をはじめとするさまざまなリッポウ(トーラー)の形で示されている。
319	☐ 離乳	りにゅう	青年期は心理的リニューの時期だ。
320	☐ 領域	りょういき	国家の3要素とは「リョウイキ、国民、主権」のこと。
321	☐ 隣人愛	りんじんあい	すべての人に対する無差別・無償の愛がイエスの説いたリンジンアイである。
322	☐ 輪廻	りんね	バラモン教では、すべて生あるものは、死後さまざまなものに生まれかわり(これを転生という)、生と死を無限にくりかえすことをリンネという。
323	☐ 倫理	りんり	「バイオエシックス」とは生命リンリを意味する言葉である。
324	☐ 累積	るいせき	ルイセキ債務が膨大なものになっている。 ※債務不履行(デフォルト)の危険がある
325	☐ 隷従	れいじゆう	専制とレイジュウ、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会・・・(憲法前文)
326	☐ 隷属	れいぞく	政治的には独立しても経済的には旧宗主国にレイゾクしている場合がある。モノカルチャー経済など。
327	☐ 劣化	れっか	イラク戦争で使用されたレッカウラン弾は、住民や兵士に健康被害をもたらした。
328	☐ 連鎖	れんさ	農業汚染により食物レンサが壊され、生態系が破壊される。 ※放射性物質に汚染された稲わらも・・・
329	☐ 連座制	れんざ	候補者本人以外が有罪となった場合に候補者の当選が無効となるレンザ制は、公正な選挙実現のための有効な方法である。
330	☐ 連邦制	れんぽう	複数の民族が一つの国家を形成する方法の一つがレンボウ制だ。
331	☐ 六信	ろくしん	アツラー、天使、啓典、使徒(預言者)、来世、予定(定命)の存在を信じることを、ロクシンという。
332	☐ 六波羅蜜	ろくはらみつ	布施(ふせ)、持戒(じかい)、忍辱(にんにく)、精進(しょうじん)、禪定(ぜんじょう)、智慧(ちえ)の6種の修行をロクハラミツといい、悟りの世界に渡るための修行方法とされた。
333	☐ 和魂洋才	わこんようさい	佐久間象山の「東洋道徳 西洋芸術」という言葉はワコンヨウサイの考え方である。 ※この場合の芸術は、科学や技術を指す
334	☐		